

環境報告書 平成30年度決算版

©City of Osaka

令和元年度「水」の絵コンクール特選作品



「プールだいすき」
大隅西小学校 1年 安田 禮さん



「世界の水」
春日出小学校 5年 藤川 響さん



「未来へつながる虹のかけはし」
大東小学校 3年 山本 航靖さん

目次

1	はじめに	3
2	事業概要	5
	(1) 水道事業及び工業用水道事業の概要	
	(2) 大阪市における浄水処理	
	(3) 浄水場における物質フロー	
3	水道局における環境への取り組み	7
4	低炭素社会の構築	8
	(1) 再生可能エネルギーや未利用エネルギーの活用	
	(2) 省エネルギー対策・省CO ₂ 対策の推進	
	(3) 交通・物流対策の推進	
	(4) 木や緑の活用	
5	循環型社会の形成	13
	(1) 減量化・適正処理の推進	
	(2) グリーン購入の推進	
6	快適な都市環境の確保	14
	(1) 都市景観の保全と創造	
	(2) 水環境の保全と改善	
	(3) 地盤環境の保全	
	(4) 生活環境の保全と改善	
	(5) 化学物質対策の推進	
7	環境効率を表す指標	18
8	環境会計	20
	(1) 環境会計の趣旨と導入の目的	
	(2) 対象範囲	
	(3) 環境会計（平成30年度決算版）の概要	
	(4) 環境会計（平成30年度決算版）の総括表	
	(5) 平成30年度決算におけるCO ₂ 削減効果	
9	市内での環境への負荷低減に関する率先した行動の展開	22
	(1) 大阪市市内環境管理計画の取り組み	
	(2) 大阪市市内環境管理計画の推進体制	
	(3) 職場改善運動（かいぜん Water）の取り組みの推進	



環境報告書作成にあたって

報告対象分野 水道事業、工業用水道事業

報告対象期間 平成30年4月1日～平成31年3月31日（一部情報については令和元年度のものを記載しています。）

この報告書は、平成30年6月に環境省が公表した「環境報告ガイドライン（2018年版）」を参考に作成しました。

大阪市水道局環境報告書（平成 30 年度決算版）の発行にあたって

近年、地球温暖化を始めとする地球環境の悪化が世界的に大きな問題となっています。私たちの生活基盤である豊かな地球環境を次世代に引き継いでいくためには、資源やエネルギーを大切に、環境への負荷の少ない社会を築いていく必要があります。

お客さまに水道水をお届けしている水道事業は地球環境と密接に関係し、その事業活動においてさまざまな資源を使用しています。

私たち大阪市水道局は、こうした環境に深く関わる事業者として、環境に配慮した事業運営を行っていく重大な責務があると考え、環境保全や環境負荷低減につながる取組みを推進しております。

これまでに、ポンプ設備をはじめとする水道施設に関する種々の省エネルギー対策の実施や、太陽光発電、水力発電の導入といった再生可能エネルギーの利用向上、さらには浄水場発生土の有効活用を始めとする廃棄物の減量化の施策などに率先して取り組むなど、さまざまな分野での環境施策を進めています。

この環境報告書は、大阪市水道局が実施するこうした環境保全・環境負荷低減の取組状況や各種取組みの成果などを総合的に報告するために、平成 16 年度より毎年作成・公表しているものです。

今後とも、水道事業と環境との関わりを明らかにしてお客さまにご理解・ご協力をいただきながら、環境にやさしい水道事業をめざして、効果的な環境施策に取り組んでまいります。



大阪市水道局長

河谷 幸生

環境への新たな取り組み

水道局では、2015年9月の国連サミットにおいて全会一致で採択された、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030年を年限とする17の国際目標である「持続可能な開発目標（SDGs）」の趣旨をふまえた、環境にやさしい取り組みを推進することで、SDGsの達成に貢献していきます。

また、2018年3月に策定した「大阪市水道経営戦略（2018-2027）」における「市民・お客さまとの10のコミットメント（約束事）」の8番目の項目として、次のように取り決めにいたしました。

「8. 地球環境への負荷低減による持続可能な社会づくりに向けて、省エネルギーの推進、再生エネルギーの活用など、地球温暖化対策に取り組むとともに、浄水発生土など資源の有効利用を促進することにより、循環型社会の形成に貢献します。」

このコミットメント（約束事）はSDGsの理念や方向性と共通しており、水道局ではSDGsの達成に向け、環境に配慮した取り組みを推進しています。



大阪市水道局「環境報告書平成30年度決算版」
に関連するSDGsの目標はこの12です。

持続可能な開発目標（SDGs）とは

2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、水道局としても積極的に取り組んでいます。